

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票(評価対象年度:令和4年度)

| | |
|-----------|-----------------|
| 施設の名称 | 宮城県岩出山牧場 |
| 指定管理者の名称 | 公益社団法人みやぎ農業振興公社 |
| 施設所管部課(室) | 農政部畜産課 |

1. 当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

| 期 間 | 管理形態 | 指定管理者(管理受託者)の名称 | 摘要 |
|-------------------|-------|-----------------|----|
| ～ 平成18年3月 | 管理委託 | 社団法人宮城県農業公社 | |
| 平成18年4月 ～ 平成21年3月 | 指定管理者 | 社団法人宮城県農業公社 | |
| 平成21年4月 ～ 平成26年3月 | 指定管理者 | 公益社団法人みやぎ農業振興公社 | |
| 平成26年4月 ～ 平成31年3月 | 指定管理者 | 公益社団法人みやぎ農業振興公社 | |
| 平成31年4月 ～ 令和 6年3月 | 指定管理者 | 公益社団法人みやぎ農業振興公社 | |

(注)管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入してください。

2. 現指定管理者の概要【施設所管課記入】

| | | |
|----------|---|------------------|
| 指定管理者の名称 | 名称 | 公益社団法人 みやぎ農業振興公社 |
| | 所在地 | 仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号 |
| 指 定 期 間 | 平成31年4月1日 ～ 令和6年3月31日 (5か年) | |
| 募 集 方 法 | <input type="checkbox"/> 公募 <input checked="" type="checkbox"/> 非公募 | |

3. 施設の概要【施設所管課記入】

| | | |
|---------------|--|---|
| 施設の名称 | 宮城県岩出山牧場 | |
| 所在地 | 宮城県大崎市岩出山、加美郡加美町 | |
| 設置年月 | 昭和46年5月 | |
| 根拠条例等 | 公共育成牧場条例(昭和46年条例第19号) | |
| 設置目的 | 県有牛の飼養管理、肉用牛集団育種推進事業における産肉能力検定事業、乳用牛及び肉用牛の預託育成事業 | |
| 施設の内容 | 敷地面積 | 1,444,000㎡ |
| | 構 造 | 放牧地、植林地、事務所・畜舎等の建物26棟、工作物 ほか |
| 施設の内容 | 内 容 | ・放牧地 812,000㎡ ・建物敷地 30,000㎡ ・その他(植林地等) 602,000㎡ ・主たる建物(事務所1棟、事業用建物その他15棟、宿舎1棟) ・工作物 サイロ3基(タワー2基、バンカー1基) |
| | 開館(所)日 | |
| 開館(所)時間 | 午前 時 分 ～ 午後 時 分 | |
| 指定管理者が行う業務の範囲 | 1 施設全体の管理運営業務 施設全体の運営マネジメント業務、施設の総務・経理業務、施設・機械・設備の維持管理業務(除草、除雪等含む)、草地管理業務、衛生・防疫管理業務(環境整備等含む)ほか 2 事業実施に関する業務 (1)預託事業(施設の使用許可、預託牛募集に関する業務、預託牛の飼養管理業務等) (2)県有牛飼養管理業務 (3)種付業務(県有牛への種付業務、預託牛への種付業務、人工授精用精液の管理等) (4)検定業務(直接検定) | |
| 利用料金制 | 採用の有無 | <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 |
| | 利用料金の名称 | 牧場使用料、人工授精料、除角料 |

4. 施設利用実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

| 項 目 | 事業計画 | 実 績 | | 対計画比 (C)/(A) | 対前年度比 (C)/(B) |
|---------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
| | 評価対象年度 (令和4年度) (A) | 前 年 度 (令和3年度) (B) | 評価対象年度 (令和4年度) (C) | | |
| 開館(所)日数 | 365 日 | 365 日 | 365 日 | 100.0% | 100.0% |
| 延べ利用者数 | 80 人 | 60 人 | 82 人 | 102.5% | 136.7% |

(注)対象施設が複数ある場合は、施設ごとに記入してください。

(2) 延べ利用者数の内訳

| 項 目 | 事業計画 | 実 績 | | 対計画比 (C)/(A) | 対前年度比 (C)/(B) |
|-------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
| | 評価対象年度 (令和4年度) (A) | 前 年 度 (令和3年度) (B) | 評価対象年度 (令和4年度) (C) | | |
| 牧場案内 | 50 人 | 38 人 | 60 人 | 120.0% | 157.9% |
| 実務研修生 | 人 | 人 | 人 | - | - |
| 預託利用者 | 30 人 | 22 人 | 22 人 | 73.3% | 100.0% |
| | 人 | 人 | 人 | - | - |
| | 人 | 人 | 人 | - | - |
| 合 計 | 80 人 | 60 人 | 82 人 | 102.5% | 136.7% |

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入

(単位:千円、%)

| 項 目 | 事業計画 | 実 績 | | 対計画比 (C)/(A) | 対前年度比 (C)/(B) |
|---------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
| | 評価対象年度 (令和4年度) (A) | 前 年 度 (令和3年度) (B) | 評価対象年度 (令和4年度) (C) | | |
| 県指定管理料 | 78,496 | 78,496 | 89,637 | 114.2% | 114.2% |
| 利用料金収入 | 5,663 | 4,087 | 4,954 | 87.5% | 121.2% |
| その他 | 170 | 482 | 463 | 272.4% | 96.1% |
| 収入計 (a) | 84,329 | 83,065 | 95,054 | 112.7% | 114.4% |

(2) 支出

| | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 人件費 | 34,819 | 32,011 | 38,753 | 111.3% | 121.1% |
| 施設管理費 | 5,309 | 6,843 | 7,312 | 137.7% | 106.9% |
| 事業運営費 | 47,575 | 42,278 | 51,322 | 107.9% | 121.4% |
| その他 | | | | - | - |
| 支出計 (b) | 87,703 | 81,132 | 97,387 | 111.0% | 120.0% |

(3) 収支

| | | | | | |
|-----------------|--------|-------|--------|-------|---------|
| 収 支 (c)=(a)-(b) | -3,374 | 1,933 | -2,333 | 69.1% | -120.7% |
| 前期繰越収支差額 | | | | - | - |
| 次期繰越収支差額 | | | | - | - |

(別掲)

自主事業収支実績

(1) 収入

(単位:千円、%)

| 項 目 | 事業計画 | 実 績 | | 対計画比 (C)/(A) | 対前年度比 (C)/(B) |
|---------|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|
| | 評価対象年度 (令和4年度) (A) | 前 年 度 (令和3年度) (B) | 評価対象年度 (令和4年度) (C) | | |
| 県指定管理料 | | | | - | - |
| 利用料金収入 | 3,926 | 4,723 | 4,127 | 105.1% | 87.4% |
| その他 | | | | - | - |
| 収入計 (a) | 3,926 | 4,723 | 4,127 | 105.1% | 87.4% |

(2) 支出

| | | | | | |
|---------|-------|-------|-------|--------|--------|
| 人件費 | 1,500 | 1,800 | 1,800 | 120.0% | 100.0% |
| 施設管理費 | 221 | 94 | 222 | 100.5% | 236.2% |
| 事業運営費 | 797 | 1,012 | 1,744 | 218.8% | 172.3% |
| その他 | | | | - | - |
| 支出計 (b) | 2,518 | 2,906 | 3,766 | 149.6% | 129.6% |

(3) 収支

| | | | | | |
|-----------------|-------|-------|-----|-------|-------|
| 収 支 (c)=(a)-(b) | 1,408 | 1,817 | 361 | 25.6% | 19.9% |
| 前期繰越収支差額 | | | | - | - |
| 次期繰越収支差額 | | | | - | - |

6. 評価対象年度(令和4年度)の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

| 項目 | 事業実績 【指定管理者記入】 | | 指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】 | | 県の評価 【施設所管課記入】 | | |
|---------------------|--|----|---|----|-------------------|--|---|
| | | | | 評価 | | 評価 | |
| ①管理運営体制 | 施設の維持管理を適切に行うとともに、5カ年の指定管理計画に基づき若手職員の育成及び技術の向上に努めた。 | | 適切な管理運営を行うことができた。 | | A | 施設全体のマネジメントとして総務・経理業務及び施設・機械・設備維持管理業務を含む各種業務を実施し、適正な体制により管理運営を行った。 | A |
| 人員体制 | 正規 | 2人 | 非正規 | 6人 | | | |
| ②施設・設備の維持管理業務の実施 | 施設、機械等の老朽化が進む中、各設備の状況の把握と使用前点検、および定期点検を行い、適正な維持管理に努めた。 | | 各設備の適正な維持管理に努めたため、作業の安全を確保することができた。また、定期点検を適切に行い、修繕等の経費を最小限に抑えることができた。 | | A | 施設・機械の老朽化が顕著となっている中、日常的な保守点検や修繕が適切に実施されており、大きな事故も無く、安全かつ効率良く維持管理が行われている。 | A |
| ③運営業務(ソフト事業等)の実施 | 家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導のもと、衛生、防疫の管理に努めた。また日常から、職員間で情報を共有し早期発見、早期治療に努めた。 | | 家畜保健衛生所、畜産試験場、獣医師の指導のもと、衛生、防疫の管理を徹底することができた。 | | A | 家畜を管理する上で、防疫衛生対策は非常に重要な業務になるが、獣医師の指導に適切に対応し、疾病や死産が減少するなど、概ね善良な管理がなされている。 | A |
| ④自主事業の実施 | 農家からの「非放牧期間(11月～3月)」に係る預託希望に応えるため、周年で預託牛の受け入れを実施した。 | | 放牧できない期間についても舍飼いによる預託を希望する農家が多かったため、11月から3月までを周年預託期間と位置づけ、年間を通しての預託事業を実施した。 | | A | 利用者からの要望に応じて周年放牧事業を実施しており、アンケート結果から当事業は生産者から好評で利用者サービスにつながっていると同時に、収益性も確保していることから、評価できる取組である。 | A |
| ⑤利用者サービスの向上 | 研修者、預託者、直検牛飼養者、来訪者などへの場内案内を行うとともに、市場上場時の農家への説明などを行った。 | | 農業大学の研修や視察などを積極的に受け入れた。利用者に牧場の事業説明を行い、また問い合わせに丁寧に対応することで、牧場への理解を深めてもらうことができた。 | | A | 視察の受入(延べ60名)、預託希望者への事業説明に加え、預託者に対する預託牛の現状報告を行うなど利用者に向けた適切なサービス提供が行われている。 | A |
| ⑥利用者の苦情、要望等の把握とその反映 | 預託事業について利用農家からアンケートをとり、利用者の要望等の把握に努めた。 | | 預託者からは事業内容には全体的に満足との評価を得ることができた。利用料金について問い合わせがあったが、説明し理解をいただいた。 | | A | 主な利用者である預託事業利用者にアンケートを実施し、意見・要望を把握しており、問合せについても丁寧に回答し理解を得ている。 | A |
| ⑦安全対策 | 平成28年度に作成した種雄牛安全管理マニュアルに沿って安全対策を徹底した。 | | 労働安全衛生の研修などを積極的に受け、安全に対する意識を高めることができた。また、安全管理マニュアルの徹底により、事故等なく安全に作業することができた。 | | A | 日常作業での安全確認を徹底し、安全対策に対する意識向上が図られている。また、危険を伴う種雄牛候補牛(直接検定牛)の管理においては、独自の安全マニュアルに基づく対応により事故無く作業されている。 | A |
| ⑧県民の平等利用 | 県内全域を対象にした預託事業を行った。公社ホームページや市場上場時のパンフレット配布などで広く周知を行い、県民の平等利用に努めた。 | | 利用者、見学者などからは牧場の事業実施内容について良い評価を得ることができた。 | | A | 預託事業の周知において、県内全域から生産者の集まる家畜市場でのパンフレット配布や、県出先機関・市町村等と連携するなど、県内に広く周知されている。 | A |

| 項目 | 事業実績 【指定管理者記入】 | 指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】 | | 県の評価 【施設所管課記入】 | |
|----------|----------------------------|---|----|---|----|
| | | | 評価 | | 評価 |
| ⑨個人情報の保護 | 個人情報保護法に基づき個人情報の適正な管理を行った。 | 適正な管理を行い、個人情報の保護を図ることができた。 | A | 預託者情報等の個人情報管理は、適切に実施されていると認められる。 | A |
| ⑩利用実績 | 上記「4. 施設利用実績」のとおり。 | 預託事業が広く周知され、新規の利用者が増えている。また頭数も昨年度を超える実績となった。 | A | 主要業務である預託事業の利用実績については、昨年度からの利用者数が維持されており、継続した取組は評価できる。 | A |
| ⑪収支実績 | 上記「5. 管理運営収支実績」のとおり。 | 施設の老朽化に対応すべく適切な点検・管理を行うことができた。資材・飼料費高騰の中、できる限りの経費の削減に努めた。 | A | 収入は増加したが、飼料や燃料等の高騰の影響が大きく、支出も増加したため、自給飼料の収量増など経費削減に向けて今後さらなる工夫・改善が必要である。 | B |
| ⑫その他の取組 | 環境配慮の取組を積極的に行った。 | 節電・節水をはじめ、再生紙の利用や堆肥の農地還元、側溝清掃や場内道路脇の草刈り、廃油のパンクリーナー等への潤滑油としての再利用など、環境に配慮した取組を行うことができた。 | A | 環境に配慮した再利用や節減の取組は、高く評価できる。 | A |
| 総合評価 | | 施設の整備・維持管理、預託牛・県有牛の飼養管理、および検定事業の実施などを適正に行うことができた。 | A | 施設設備等の維持管理、預託牛の飼養管理及び利用料金制に係る経理事務、県有牛の飼養管理及び検定業務等、多岐に渡る業務をその高度・専門的スキルにより適切に実施されていたと認められる。 | A |

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

| 評価 | 評価の考え方 |
|----|--|
| S | 年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。 |
| A | 年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。 |
| B | 年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。 |
| C | 年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。 |

【県が行う評価の基準(目安)】

| 評価 | 評価の考え方 |
|----|--|
| S | 年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。 |
| A | 年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。 |
| B | 年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。 |
| C | 年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。 |

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

| 項目 | 指定管理者 【指定管理者記入】 | 県 【施設所管課記入】 |
|----------|--|---|
| 管理運営の課題等 | <ul style="list-style-type: none"> 資材・飼料価格の高騰により、5カ年の事業計画の想定を超える厳しい管理運営を余儀なくされていること。 夏期間間においては、近年の気温上昇に伴い健康管理の面から作業従事者の休憩所及び事務所の環境改善が必要であること。 女性職員が複数いるがトイレは共用せざるを得ないなど、施設が古いまま経過しており、女性の雇用には対応できていない状況であること。 | <ul style="list-style-type: none"> 自給飼料の増産による飼料費の低減など経費削減に努める必要がある。 施設・機械の老朽化に伴う計画的な更新・修繕が必要である。 繁殖性の面から県有牛の淘汰、計画的な牛群の更新を進める等、生産率のさらなる向上を目指す必要がある。 |